# 令和元年度　大田区立大森第六中学校　自己評価　報告書

令和2年2月3日

## ○　本校の概要

本校は昭和22年に開校し、私鉄の4駅に囲まれた交通至便な住宅街にあり、現在は12学級、全校生徒361名の中学校である。敷地は風致地区内にあり、自然に溢れ、4月には校庭も一面桜の花で覆われる。校庭の竹林にはたくたくさんのタケノコが生え、給食で春の香りを楽しんでいる。隣接して区民の憩いの場である周囲を15分ほどで歩ける風光明媚な洗足池があり、運動会の長距離走ではここがコースとなっている。生徒たちはこの池にホタルを自生させる活動に取り組み、毎年その風情を地域の方から喜ばれている。また、落ち葉を集めて作ったミミズコンポスト、夏の陽射しをさえぎるゴーヤのグリーンカーテン、さらに近隣の大岡山駅の駅前花壇作り等も行っている。教育目標は○気品のある生徒の育成　○実力のある生徒の育成　○健康の優れた生徒の育成の3つを掲げている。教育活動は、２０１１年にユネスコスクールに加盟し、地域を「屋根のない学校」として捉え、地域の人とともにモットーに地域の中で、地域の人々と共に、地域のために、環境を保全する環境教育や、災害に立ち向かう場所としての防災教育を中心に、国際理解・交流教育、地域連携教育、人権・人命尊重・平和教育を行い、生徒の自己有用感、自己肯定感を育んでいる。自分の育った地域に愛着を持ち、郷土愛を育み、将来の日本、世界の様々な課題を考え解決して、心豊かに生きていく基盤となる教育実践を行うことで、SDGsを到達目標としながら、20年・30年後の持続可能な社会の担い手を育てる持続発展教育（ESD）を推進している。

## ○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 目標 | 取組内容 | 取組指標 | 取組評価 | 目標に対する成果指標 | | 成果評価 | これまでの取組<br>今後の改善策 | 学校関係者記入欄 評価 | 人数 | コメント |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| プラン１　未来社会を創造的に生きる子供の育成 | コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。 | 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 | 4：「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3：80%以上が回答した。<br>2：60%以上が回答した。<br>1：60%未満であった。 | 4 | 4：生徒学校評価アンケートの該当する項目(9～15,18～21)が90%以上 | 4： | 3 | 新しい大田区アクションプラン1「未来社会を創造的に生きる子供の育成」に対する成果評価は「3」（達成率89.2%）であったっが、本校の教育の柱でもある「ESDの推進」に対して生徒は、学校評価アンケートの中で、「大森第六中学校は、特色ある教育活動を行っていると思う。」（達成率92.8%）、「大森第六中学校に入学してよかったと思う。」（達成率92.0%）、「学校生活は楽しい。」（達成率91.8%）と理解を示しており、「思考力」「コミュニケーション力」「判断力」の成長も肌で感じ取っているのではないかと思われる。今回、新アクションプラン１の達成率が0.8%上がりきらなかった原因は、達成率71.9%の「家庭で宿題、予習・復習をしっかりしている。」（昨年度の達成率69.4%）と達成率77.3%の「私は、定期考査に向けて、計画的に熱心に取り組んでいる。」（昨年度達成率74.1%）の２項目にあったが、これらも昨年度達成率に比べると上昇傾向にあり、来年度の取組評価が「４」に上昇する可能性は十分にある。 | A | 13 | ・SDGｓへの取組が校内に浸透しているとはとても素晴らしい。<br>・家庭での学習も力を入れて欲しい。<br>・一人一人が可能性を持ち物事に取り組んでいる。<br>・学校生活が楽しいが９２%大変素晴らしい。先生方の御指導のおかげです。<br>・社会の変化に対応する力が備えるような取組を学校全体で徹底できていると思う。<br>・コミュニケーション力の向上に努めていただければと思います。<br>・ESD教育を金教科に取り入れ深い学びが得られて学校生活を楽しみ、積極的に取り組んで　いる生徒がとても多いことは素晴らしい。<br>・成果指標が高いような気もします。どこにいても楽しく過ごせる事は幸せなことです。<br>・時代を先取りした教育に敬意を表します。<br>・SDGｓの取り組みが成果を上げているのは素晴らしいことです。<br>・「家庭での宿題、予習復習」と「定期考査に向けての取組」が上昇傾向にあるとのことで今後が期待される。 |
| | | | | | | | | | B | 1 | |
| | | | | | | | | | C | | |
| | | | | | | | | | D | | |
| プラン２　学力の向上 | 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。 | 学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 | 4：対象となる全学級（全教員）で行った。<br>3：80%以上で行った。<br>2：60%以上で行った。<br>1：60%未満であった。 | 4 | 4：生徒による授業アンケートのうち、生徒の自己評価の項目(1～7)で3または4と答えた生徒が90%以上 | 4： | 4 | 今年度も定期考査１週間前の部活動停止期間に「青竹クラブ」(5教科の補充授業を１日１教科で5日間実施)を実施してきた。その成果もあり成果指標達成率は93.57%（昨年度は92.66%）と概ね良好な状況であった。今年度も例年に比べ時間講師の人数が少なく、水曜日の職員会議中に実施することが困難であったり、試験期間に祝日が入ったりして「青竹クラブ」の実施日数を十分に確保できなかったが、時間講師の先生方のご好意で時間を延長して、1日に2科目実施（終了が18:00になることもあった。）するなどの工夫により、生徒の要望に応えていけた成果だと思われる。（生徒の「定期考査前の学習は十分に時間を取って取り組んでいる。」の成果指標が昨年度の78.40%から84.3%に上昇）ただ、区教委の方針で土曜補習は第２土曜に実施する方針に変わったため、定期考査前の実施が困難になり、参加率が下がったことが残念である。来年度もいろいろな工夫を重ねて個別指導をより充実させていきたい。、 | A | 13 | ・補習教室に生徒がいつも参加していて前向きな意識が感じられる。<br>・土曜補習教室を上手く情報共有が出来れば参加者も増えていく。<br>・学習面で、予習、復習の姿勢を家庭で行えるように進んでほしい。<br>・全ての項目において評価は適切です。熱心なご指導に感謝いたします。<br>・ほぼ全ての項目が４と非常に高い水準であると思います。<br>・生徒一人ひとりへのていねいな対応を継続されることを願っています。<br>・青竹クラブを継続出来ることは先生方の生徒の学力向上に向けての思いやりと努力の賜だと思う。土曜補習は定期考査前に実施出来ると助かります。<br>・中学校でも きめ細かな指導に努力されていることがわかりました。小学校での学びの定着に課題があるケースもあるかもしれません。小学校での学びをしっかり定着させて進学させられるよう、努力して参ります。<br>・生徒の評価が高いのはよいと思いますが、働き方改革という観点から捉えると先生方に余り負担とならないようにしてください。<br>・１日に２科目の「青竹クラブ」の実施に取り組んだとのことで先生方の熱心さが伝わってきます。 |
| | | | 4：対象となる全学級（全教員）で行った。<br>3：80%以上で行った。<br>2：60%以上で行った。<br>1：60%未満であった。 | 4 | 3：生徒による授業アンケートのうち、生徒の自己評価の項目(1～7)で3または4と答えた生徒が80%以上 | 3： | | | B | 1 | |
| | | 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 | 4:学期に2～3回知らせた。<br>3：学期毎に知らせた。<br>2：年度間に1回は知らせた。<br>1：お知らせできなかった。 | 4 | | | | | C | | |
| | | 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 | 4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。<br>3：80%以上の教員が働きかけた。<br>2：60%以上の教員が働きかけた。<br>1：60%以下の教員が働きかけた。 | 4 | 2：生徒による授業アンケートのうち、生徒の自己評価の項目(1～7)で3または4と答えた生徒が60%以上 | 2： | | | D | | |
| | | 授業改善推進プランを、授業に生かす。 | 4：「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3：80%以上が回答した。<br>2：60%以上が回答した。<br>1：60%未満であった。 | 3 | | | | | | | |
| | | 基礎学力の定着を目指し、定期考査前に、専任教員と学習指導講師が協力して、国語・社会・数学・理科・英語の五教科の補充授業実施する。 | 4：毎回五教科すべて実施した。<br>3：80%以上の実施率であった。<br>2：60%以上の実施率であった。<br>1：60%未満の実施率であった。 | 4 | 1：生徒による授業アンケートのうち、生徒の自己評価の項目(1～7)で3または4と答えた生徒が60%未満 | 1： | | | | | |
| プラン３　豊かな心の育成 | 子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。 | 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 | 4：全教員が行った。<br>3：80%以上の教員が行った。<br>2：60%以上の教員が行った。<br>1：60%未満であった。 | 4 | 4：生徒学校評価アンケートの該当する項目(1～8),生徒の生活アンケートの該当する項目(1・14～22)及び、保護者対象アンケートの該当する項目(4～6)で3または4と答えた生徒・保護者が90%以上 | 4： | 4 | これまでの10年間、SDGs達成にむけて、ESDの活動をより活性化させ、「主体的・対話的で深い学び」の実践を積み上げてきた結果、成果指標達成率が91.16%と充分満足できる達成率になった。その成果として「自分にはよいところがある。」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。」という自己肯定感を問う設問の達成率が79.05%（昨年も79.05%、一昨年は72.15%）と少しずつではあるが上昇してきている。しかし、この達成率はけして高いとはいえない。客観的に見ても六中の生徒はたいへん頑張って活動している。今後も具体的な数値目標であるSDGsを有効に活用し、大森六中の学校全体としての取り組みや、生徒一人一人の活動や学習がどれくらい世界に貢献しているかを気付かせていきたい。さらに、昨年度は「学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等をのための取り組みを実施する」の項目の取組評価を3と評価したが、今年度は4にもどすことができた。ユネスコスクールであるがぎり、国内外からの要人の来校などで多忙であることは変わらないが、昨年度の「もっと、生徒と深いコミュニケーションをとる時間を作っていこう。」という気持ちを実践できた結果であると思われる。「生徒は学校の宝である」ことを来年度も忘れないように日常の教育活動をより丁寧に取り組んでいきたい。 | A | 13 | ・いじめに対して全教員で対応する姿勢は子供達に良い影響を与える。<br>・ボランティアについては、情報を学校が多く出しているのは素晴らしい。<br>・ボランティア活動を通し人に役立つコミュニケーション作りができることは評価する。<br>・自己肯定感をより高められるとよりよいと思います。<br>・今後も学校内での課題にていねいかつ継続的な取り組みをお願いいたします。<br>・問題行動、不登校問題については、生徒の心に寄り添って指導をお願いします。地域で協力できることがあれば見守って行きたい。<br>・マスク作りやボランティア活動など生徒が志をもって前向きに歩いていこうとしている様子がよくわかりました。たのもしく感じます。<br>・六中の生徒一人一人の活動がどれだけ世界に貢献しているか、ぜひ気付かせてあげてほしいと願っています。 |
| | | 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 | 4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。<br>3：学期に1回（年間3回）以上行った。<br>2：年度間に1回以上行った。<br>1：実施しなかった。 | 3 | 3：生徒学校評価アンケートの該当する項目(1～8),生徒の生活アンケートの該当する項目(1・14～22)及び、保護者対象アンケートの該当する項目(4～6)で3または4と答えた生徒・保護者が80%以上 | 3： | | | B | 1 | |
| | | 学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 | 4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。<br>3：80%以上の教員が回答した。<br>2：60%以上の教員が回答した。<br>1：60%未満であった。 | 4 | | | | | C | | |
| | | 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 | 4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。<br>3：80%以上の教員が回答した。<br>2：60%以上の教員が回答した。<br>1：60%未満であった。 | 4 | 2：生徒学校評価アンケートの該当する項目(1～8),生徒の生活アンケートの該当する項目(1・14～22)及び、保護者対象アンケートの該当する項目(4～6)で3または4と答えた生徒・保護者が60%以上 | 2： | | | D | | |
| | | 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 | 4：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。<br>3：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。<br>2：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。<br>1：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。 | 4 | 1：生徒学校評価アンケートの該当する項目(1～8),生徒の生活アンケートの該当する項目(1・14～22)及び、保護者対象アンケートの該当する項目(4～6)で3または4と答えた生徒・保護者が60%未満 | 1： | | | | | |
| | | 人と人、人と自然のつながりを体験させりために、ボランティア活動に対する生徒の意欲を高めさせ、積極的に参加させる。 | 4：ボランティア活動を月1回以上実施した。<br>3：ボランティア活動を学期に1回以上実施した。<br>2：ボランティア活動を年1回以上実施した。<br>1：実施しなかった。 | 4 | | | | | | | |
| プラン４　体力の向上と健康の増進 | スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。 | 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 | 4：全教員で行った。<br>3：80%以上の教員で行った。<br>2：60%以上の教員で行った。<br>1：60%未満であった。 | 4 | 4：生徒学校評価アンケートの該当する項目（16・17,22～25）、生徒の生活アンケートの該当する項目(2～5)で3または4と答えた生徒が90%以上 | 4： | 3 | 成果指標達成率は89.63%であり、昨年度（88.89%）より0.74ポイント上昇した数値になった。それでも、「学校の施設・設備は十分に整っている。」（達成率68.4%）や「給食は工夫されていて、おいしい。」（達成率65.9%）という設問の達成率は低調であった。校舎そのものの老朽化は事実であり、どうにもならないことであるが、大田区の28中学校の中でも自然の豊かさや地域の方々の温かさ、「地産地消」で作られる給食の安全性は心では理解していると思う。保健給食委員会で取り組んでいるフードロスプロジェクトや生徒会、家庭科部が参加したサルベージパーティーなどの成果も現れてきており、今後生徒自身が持続発展のために一番大切なものが物質的なものを追いかけるのではなく、自らの心に栄養を与えることであることにに気付いてくれることに期待したい。また、「学校の授業（体育）での取り組みで基礎体力が向上した。」の達成率が年々上昇してきている（73.2%→79.2%）のは、体育科の指導が確実に定着してきている証であると考える。 | A | 13 | ・食育への取組、養護教諭の「柔軟な体を作るトレーニング」も画期的だと思う。<br>・基礎体力や体幹は、是非引続ぎやっていって欲しい。<br>・運動会において年々追力が薄れていくのがさみしい。<br>・施設の老朽化が課題になっていると思います。できるところの改善ができればよい。<br>・「食育」を含めた体力・運動習慣の維持向上に期待しております。<br>・養護教諭も体力向上に取り組まれ成果が現れていることは素晴らしい。<br>・活発、体幹等のトレーニングは授業以外で行っても良いのでは。<br>・体幹トレーニングは小学校でも重要なポイントと考えています。連携して取り組んでいけければと思います。<br>・給食に関しては好みの問題もありますから「おいしい」という観点で評価する必要はないのでは。<br>・施設設備のハード面よりも心に栄養を与えることの大切さであるソフト面をぜひ充実させることを期待しています。 |
| | | 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 | 4：全教員で行った。<br>3：80%以上の教員で行った。<br>2：60%以上の教員で行った。<br>1：60%未満であった。 | 4 | 3：生徒学校評価アンケートの該当するこ項目（16・17,22～25）、生徒の生活アンケートの該当する項目(2～5)で3または4と答えた生徒が80%以上 | 3： | | | B | | |
| | | 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 | 4：全教員で行った。<br>3：80%以上の教員で行った。<br>2：60%以上の教員で行った。<br>1：60%未満であった。 | 4 | 2：生徒学校評価アンケートの該当するこ項目（16・17,22～25）、生徒の生活アンケートの該当する項目(2～5)で3または4と答えた生徒が60%以上 | 2： | | | C | 1 | |
| | | 体育の授業中において、筋肉・体幹等のトレーニングを行う。 | 4：90%以上行っている。<br>3：80%以上行っている。<br>2：50%以上行っている。<br>1：50%未満であった。 | 3 | 1：生徒学校評価アンケートの該当するこ項目（16・17,22～25）、生徒の生活アンケートの該当する項目(2～5)で3または4と答えた生徒が60%未満 | 1： | | | D | | |
| プラン５　魅力ある教育環境づくり | 児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。 | 授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 | 4：「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3：80%以上の教員が回答した。<br>2：60%以上の教員が回答した。<br>1：60%未満であった。 | 3 | 4：生徒による授業アンケートのうち、生徒による授業評価の項目(8～18)で3または4と答えた生徒が90%以上 | 4： | 4 | これまでの１０年間のESD、SDGsの研究や実践の成果や、また今年度より新たに、国立教育政策研究所の研究校に指定され、「SDGsの達成に向けた学校教育の取組～カリキュラムマネジメントの工夫と主体的・対話的で深い学びの実践～」をテーマにした研究の１年目の取り組みの成果もあって、成果指標達成率は92.71%と概ね満足いく数値であった。（昨年度は90.31%）特に、SDGsを念頭においたクロスカリキュラムの作成と実践、主体的・対話的で深い学びの授業への導入に関しては教員側の成果評価も高い評価を示している。ICTの活用に関しても、昨年度、すべて普通教室にも電子黒板が入り教師用タブレットも一人１台導入され、また今年度より特別教室にも電子黒板が入り、生徒用のタブレットも40台からさらに40台導入されたことから活用率も急激に高まっている。来年度は国研の研究発表が10月に予定されているが、「大森六中の普段通りの姿」を皆様にお見せしたいと考えている。SDGs達成へのビジョンは六中の永遠の課題として描き続けていきたいと考えている。 | A | 13 | ・ICTを大変有効に活用して授業が行われている。<br>・取組評価が３が多くても成果評価で４になるのは妥当だと思う。<br>・授業公開での各学年の取り組みを楽しみにしています。<br>・継続的に取り組まれて、SDGｓ、ESD教育などの成果がでている。<br>・ICT機器等を工夫活用されることで生徒の習熟度向上等につながることを期待してます。<br>・ESD,SDGｓの教育に学校全体で熱心に取り組み成果を実感している。<br>・これまで同様に小中連携して良質な教育環境づくりに努めていきます。<br>・SDGｓを念頭においたクロスカリキュラムの研究成果は素晴らしいと思います。研究発表会が楽しみです。 |
| | | 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 | 4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。<br>3：学期に1回（年間3回）以上行った。<br>2：年度間に1回以上行った。<br>1：実施しなかった。 | 3 | 3：生徒による授業アンケートのうち、生徒による授業評価の項目(8～18)で3または4と答えた生徒が80%以上 | 3： | | | B | 1 | |
| | | 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 | 4：「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3：80%以上の教員が回答した。<br>2：60%以上の教員が回答した。<br>1：60%未満であった。 | 3 | 2：生徒による授業アンケートのうち、生徒による授業評価の項目(8～18)で3または4と答えた生徒が60%以上 | 2： | | | C | | |
| | | 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 | 4：月1回以上行った。<br>3：学期に2～3回行った。<br>2：学期1回以上行った。<br>1：実施しなかった。 | 4 | 1：生徒による授業アンケートのうち、生徒による授業評価の項目(8～18)で3または4と答えた生徒が60%未満 | 1： | | | D | | |
| | | 全教職員でSDG's カレンダーを検討し、授業改善に取り組む。SDGsを念頭においた学校行事に取り組む。 | 4：「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3：80%以上の教員が回答した。<br>2：60%以上の教員が回答した。<br>1：60%未満であった。 | 4 | | | | | | | |
| プラン６　学校・家庭・地域が一体となって進める教育 | 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。 | 教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 | 4：月1回以上更新した。<br>3：学期に2～3回更新した。<br>2：学期1回以上更新した。<br>1：更新しなかった。 | 4 | 4：保護者学校評価アンケートの該当する項目(21～25)で3または4と答えた保護者が90%以上 | 4： | 3 | 成果指標達成率は85.48%(昨年も85.48%)と概ね満足いく数値であったといえる。学校防災訓練やまちなか点検などの防災関係の行事を始め、新入生の募集（児童・保護者共）から美化活動にいたるまで、地域や保護者の皆様に多大なるご支援を頂いた。ただ、保護者の皆様からのアンケートの回答から「学校の施設・設備は整っている。」の項目の成果指標が59.0%（昨年は58.6%）と昨年度に引き続き、極端に低かったのが残念であった。「体力向上と健康の増進」の項目でも考察したが、施設の老朽化はどうにもならない。ただ、このご意見を真摯に受け止め、SDGs達成のために地球全体の環境問題を考える大森六中が、足元である学校美化活動についても、もう一度見直し、古くても「安全・安心」をモットーに、学習活動の環境は「NO．１」になれるような学校を作っていくための良い機会にしたい。そのために、「地域の中の屋根のない学校」として保護者の皆様や地域に方々の理解を得るための努力を惜しまずに行っていきたい。 | A | 12 | ・地域とともに行う活動が定着して、世代間の交流がとても活発に行われている。<br>・ホームページに関しては、更新をこまめにしていって欲しい。<br>・地域活動への積極的に取り組む姿がうれしい。もっと大勢の参加を希望する。<br>・「地域の中の屋根のない学校」の少しでも力になれるよう協力していきたい。<br>・今後も家庭・地域と連携した教育活動をよろしくお願いいたします。<br>・学校内は整備されていて生徒たちも落ち着いて安心して訪問できる。<br>・地域として学校に関わること事を嬉しく感じます。地域も関わっている事をもっと宣伝していきたい。<br>・小池小の子どもたちにとってあこがれの中学生、あこがれの中学校になっています。<br>・施設設備に関しては「有効に活用されている」といった観点で評価してもよいと思います。<br>・安全安心をモットーにした学習環境の整備に向けて、ぜひ頑張ってほしいと願っています。 |
| | | 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 | 4：毎回情報を提供した。<br>3：おおむね情報を提供した。<br>2：あまり情報を提供しなかった。<br>1：情報を提供しなかった。 | 4 | 3：保護者学校評価アンケートの該当する項目(21～25)で3または4と答えた保護者が80%以上 | 3： | | | B | 2 | |
| | | 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 | 4：学期に2～3回行った。<br>3:学期１回以上行った<br>2：年１回以上行った。<br>1：実施しなかった。 | 4 | 2：保護者学校評価アンケートの該当する項目(21～25)で3または4と答えた保護者が60%以上 | 2： | | | C | | |
| | | 駅前の花壇整備、まちなか点検、学校防災訓練等の地域と連携した教育実践を実施する。 | 4：月1回以上行った。<br>3：学期に2～3回行った。<br>2：学期1回以上行った。<br>1：実施できなかった。 | 4 | 1：保護者学校評価アンケートの該当する項目(21～25)で3または4と答えた保護者が60%未満 | 1： | | | D | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 1 | ・学校周辺の自然をこれからも守り続けてほしい。 |

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の４点について、評価した人数を記載する。